

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第11回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

- ・片貝縄文資料館施設管理職員の常駐時間の変更について
- ・令和8年度 地域独自の予算事業（中郷区）について
- ・オープス中郷の廃止について
- ・尾崎太亮地域おこし協力隊員の退任について
- ・新潟大学創生学部学生「さとまる電鉄」の活動報告について

（2）協議（公開）

- ・新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
- ・自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・令和7年度活動報告会について
- ・地域協議会だよりの発行について

3 開催日時

令和8年2月24日（火） 午後6時から午後8時10分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

報道0名 傍聴3名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、鹿島委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、松岡委員、村越委員、陸川委員

- ・事務局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、朝日市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、早川税・市民生活班長、平原教育・文化班長
- ・上越市創造行政研究所：藤山所長、柳澤上席研究員
- ・文化行政課：新保課長、箕輪副課長

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

第11回中郷区地域協議会を開催する。

会議録の確認を松岡委員、桐山委員に依頼。

報告事項は、自主的審議事項「い～住プロジェクト」の協議終了後に行うこととし、先に協議事項に進む。

～自主的審議事項「い～住プロジェクト」について～

【竹内会長】

ワークショップに引き続き、上越市創造行政研究所から助言をいただきながら、活動報告会に向けた3本柱の整理を行う。

資料No.2について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料No.2を基に説明。

計3回行ったまちづくりワークショップから導き出された各チームの3本柱を「子どもがいる未来を！みんなで始める“まちづくり”」というテーマのもと、集約した。

【村越委員】

全体的には資料No.2のとおりで問題ないと思うが、まだ項目が多いという印象を受ける。地域住民に向けて説明するのであればもう少しまとめてもよいのではないかと思った。

【高橋委員】

「子どもがいる未来を！みんなで始める“まちづくり”」というテーマはとてもよい。取組の中には具体的なものと抽象的なものがある。

柱①については、学校と地域がどのように連携していく仕組みを作るかが大切だと感じた。

柱②については、米作りができない冬場の仕事について具体的なものがあれば、外部から人が入ってきやすくなるのではないかと思う。

柱③については、中郷の良さである自然の豊かさをPRしていくべきだと思う。

【竹内会長】

3月7日（土）に開催する活動報告会で、この内容を地域住民へ提案するというイメージを持っていただきたい。

人口減少が進む中、地域で育つ子どもたちのために何ができるかという視点で「い～住プロジェクト」が始まった。少しでも多くの人が「中郷区に住んでよかった」「中郷区に来てみたい」と感じられるようにするために、取組の3本柱ができた。活動報告会を機に本格始動できるようにしたい。

資料 No. 2 の3本柱の言葉は長すぎると感じている。もう少しシンプルな方が伝わりやすいのではないか。活動報告会には小中学校PTAの役員も参加される予定なので、参加者が「一緒に取組を進めたい」と思えるような会としたい。

高橋委員から意見のあった「学校と地域の連携について」はとても重要である。地域の子どもたちにしわ寄せがいくようなことはしてはいけない。

柱①に記載のある若者ヒアリングについては、先日、U・Iターンしてきた子育て世代のママさんと地域協議会の一部の委員で意見交換会を実施した。そういった方から話を聞くことで取組のヒントにもなる。次はパパさんと意見交換をしようと計画している。

柱②に記載のある空き家の情報収集については、すでに総合事務所の総務班で把握している情報があるので、その情報も活用していきたい。

情報発信については、令和8年度の予算確保には至らなかったが、予算がなくても地域協議会としてできることはある。

【鹿島委員】

新潟県で行われたU・Iターンに関するアンケート結果だったと思うが、最重要項目として「働く場所」が挙げられていた。自然豊かなところで働きたいと思う方は全国にいるはず。そういった方たちの働ける場所を整えることが大切だと思う。

また、地域全体で取組みを行う必要があると感じる。活動報告会には、PTAや町内会関係者からの参加があるので、何か一言でも感じたことを発言して帰っていただきたいという思いがある。参加される方とコミュニケーションをとりながら会を進められるような雰囲気をつくりたい。

【竹内会長】

来場者全員から直接意見を伺うことは難しいので、アンケート用紙を配付するのがよいと思う。

【鹿島委員】

「やってよかった」と思える活動報告会にしたい。

【竹内会長】

中期的・長期的な取組として記載した内容は、今後進める中で変わっていくものだが、短期的な取組や重点取組の柱の表記についてみなさんからの意見を伺いたい（意見なし）。

【藤山所長】

中郷区地域協議会がまとめた3本柱に関連する他地域の先行事例について紹介。

【尾崎委員】

佐賀県の廃校となった中学校の校舎を活用する事例は、ワークショップの中でヤングチームが構想したものに近い。まずは年に1回からやってみるなど、小さなことから始めていくことが重要だと感じた。

【藤山所長】

佐賀県の事例は、中学校の統合により空き校舎となった建物を利用している。内装等もセンスが良く、食堂に力を入れている。ぜひ視察に行ってみてほしい。

【尾崎委員】

妙高市の「まちなかプラス」という、図書館と子育て広場、住民交流カフェなどの複合施設に行く機会があった。このような施設をモデルに取組を始めてみるのもよいと思った。

【藤山所長】

全国的にも、子どもたちが自由に過ごせるスペースを設置している施設やお店が増えている。

【竹内会長】

子育て世代からは、気軽に集まり、子どもが遊んだり保護者同士で話ができたりする場所に対する需要がある。中郷区内にも活用できそうな施設や温泉、美味しい食事ができる場所などがあるので、各団体と連携しながら進めていきたい。

【竹内委員】

イベント等を行う際、スタッフが揃わないことが課題だと感じている。それぞれの得意分野を生かした参加や関われる時間の範囲で参加できるように声をかけることで意識が変わってくるのではないかと思う。

【藤山所長】

全国の好事例では、事務局体制がしっかり整っている団体が多い。事務局はボランティアではなく、一定の役割を持って運営できるようにする必要がある。役割分担を明確にすることが重要だと思う。

【高橋委員】

人集めや人材を育成する上で、気を付けた方が良いことはあるのか。

【藤山所長】

団体等の中心となる人物が失敗を認めることが大切。また、大きな失敗を回避できる体制をとることも大切。そのためには、小さなことから始めないといけない。人材の発掘は、取組を進める中で発見していくことができるとうい。

【竹内会長】

自分の成長も含めて、様々な人と関わるのが大切で、一人一人の出番を作るという考えを持って取組を進められるようにしていきたい。

～報告事項～

【竹内会長】

上越市創造行政研究所はここで退席とする。

報告事項の1つ目「片貝縄文資料館施設管理職員の常駐時間の変更」について文化行政課に説明を求める。

【新保課長】

資料「片貝縄文資料館施設管理職員の常駐時間の変更（短縮）について」に基づいて説明。

【竹内会長】

2月に行った南部地区まちづくり協議会への説明における地元の反応は。

【新保課長】

意見等はなく終わっている。

【竹内会長】

施設管理職員の常駐時間の変更に伴い、小中学生が使用する時間帯に影響はないということでしょうか。

【新保課長】

施設の利用に支障が出ないような運用を検討している。

【竹内会長】

文化行政課はここで退席とする。

報告事項の2つ目「令和8年度 地域独自の予算事業（中郷区）」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料「令和8年度地域独自の予算事業 地域自治区別事業一覧表」を基に説明。

地域協議会から提案のあった「い～住プロジェクト（情報発信の基盤づくり）」については予算獲得に至らなかった。

主な理由は、仕組みづくりの内容が定まっておらず、その後の委託・検討を担う具体的な実施主体が未確定であることから、予算計上ができないとの判断に至った。

引き続き検討を進め、体制を具体化した上で、令和9年度の事業提案を目指して調整を進めることとしたい。

【竹内会長】

中郷区の地域独自の予算事業は8件であり、予算要求額の合計は780万円弱である。継続事業とスポーツクラブ講演会が新規事業として実施される見込みとなった。

地域独自の予算は補助率が低いため、団体が手を上げにくいとの意見が他区でもあるが、補助金に依存せず地域自ら資金を確保する姿勢も必要である。一方で、数十万円規模の資金調達は負担が大きく課題も残る。

「い～住プロジェクト（情報発信の基盤づくり）」として提案した事業費は約100万円であったが、運営主体や維持体制に関する検討が不足していたと認識している。今後は民間とも連携し、資金確保と運営主体の決定など、い～住プロジェクトの発展に向けて取り組む方針である。市全体の予算規模は。

【桐山班長】

市全体では、令和8年度地域独自の予算事業として予算化を目指している事業は190件であり、予算要求額の合計は1億4000万円弱である。

【竹内会長】

報告事項の3つ目「オープス中郷の廃止」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料「オープス中郷における勝ち馬投票券の発売・払戻しの終了について」を基に説明。

【竹内会長】

施設内の売店は地元商店街が行っているの、そのような店がなくなる寂しさや影響があると思う。

【高橋委員】

残った施設について何か報告を受けているか。

【桐山班長】

最終的には解体する意向だと聞いている。

【高橋委員】

立派な施設のため維持するだけでも大変だと思うが、活用する方法があればと思った。解体するのであればやむを得ない。

【竹内会長】

報告事項の4つ目「尾崎太亮地域おこし協力隊員の退任」と5つ目「新潟大学創生学部学生『さとまる電鉄』の活動報告」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

中郷区岡沢町内会の地域おこし協力隊として令和5年3月に着任し、雪郷 lodge の運営や町内会活動の支援を行ってきた尾崎隊員が2月末で3年間の任期を終了する。

「さとまる電鉄」の活動報告は、過去3年間、地域協議会の中で行っていたが、今年度から「二本木駅鉄道まつり」を盛り上げることを重点に活動することになったため、3月18日（水）に開催される、まちづくり振興会の企画委員会の中で行うことになった。

【竹内会長】

尾崎隊員は任期後も中郷区に残るとのことなので、イベント等で顔を合わせることもあると思う。

「さとまる電鉄」については、「二本木駅鉄道まつり」に精力を傾けて活動を継続していただけると心強い。3月18日（水）の企画委員会の中で行われる活動報告についても、委員の皆さんから傍聴していただきたい。

～自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」～

【竹内会長】

自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料No.6 及び No. 7 の説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 6 及び No. 7 に基づいて説明。

【竹内会長】

さくら号についても、い～場所開設事業についても運営主体はまちづくり振興会であるが、地域協議会において提案した事業であることから、委員の皆さんのお力添えをいただきたい。

～令和 7 年度 活動報告会について～

【竹内会長】

資料 No. 4 に基づいて、当日の役割分担を確認。

参加申込みの状況はどうか。

【更山主事】

各団体等から約 60 人に参加依頼を送付した。本日時点での参加申込数は 34 人。内訳は、小学校 PTA が 5 人、中学校 PTA が 4 人、中学校職員 1 人、町内会が 16 人、各団体が 6 人、農業関係者が 2 人。まだ報告がない団体や当日の参加者も合わせると 50～60 人の参加者が見込まれる。

【竹内会長】

当日の発表資料について、事務局に説明を求める。

【桐山班長】

当日の発表資料及び発表の流れについて説明。

【竹内会長】

コミュニティバス「さくら号」の運行については岡田委員が、子どものい～場所開設事業については陸川委員から説明をしていただきたい。

い～住プロジェクトは、協議を行うことになった経緯やワークショップの実施内容を桐山委員、協議会としての 3 本柱の提案については高橋委員、最後に令和 8 年度のスケジュールについて村越委員から説明していただきたい。参加された方が取組に関わっていただけるような提案にしていきたい。

【高橋委員】

後で事務局案のシナリオを見せていただきたい。事務局案の内容を確認したうえで、自分の言葉で説明を行おうと思う。

【竹内会長】

発表の内容について、まだ調整できる時間があるので、ご意見等があれば事務局へお話しいただきたい。

当日は、午後 0 時 30 分に集合とする。

【岡田委員】

堅苦しい空気を与えないように、当日の服装は、ノーネクタイとしたらどうか。
(異議なし)

【竹内会長】

会場のレイアウトは、事務局と正副会長で相談して決定する。会場準備は午前 11 時頃から行う。

【鹿島委員】

先ほど話のあった参加者へのアンケートの内容については、事務局と調整の上、作成する。アンケートには年代と性別のみ記入することとし、無記名としたい(異議なし)。

【竹内会長】

続いて、地域協議会だよりについて、事務局に説明を求める。

【更山主事】

今年度最後となる地域協議会だよりは、3月25日発行を予定している。内容は3月7日(土)に開催する活動報告会のダイジェスト版がよいと考えている。次回の編集担当は1班になっているが、事務局で原案を作成し、各委員に確認いただく形であれば、編集委員会を開かずに作成することも可能。

【陸川委員】

編集委員会は開かなくてもよいと思う。内容については、事務局及び正副会長に一任する。

【竹内会長】

今回の編集委員会は開催しないこととする。事務局と正副会長で調整し、活動報告会の内容と令和8年度に向けた意気込み、欠員への対応などについて取り上げようと思う。

以上で本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。